令和８年度　第３回　静岡市立清水桜が丘高等学校学校運営協議会 会議録

１　開催日時　令和８年11月５日（木）　午後２から午後４時まで
２　開催場所　静岡市立清水桜が丘高等学校　第２会議室
３　出席委員　志村委員、堀谷委員、村山委員、岩本委員
４　欠席委員　遠藤委員
５　学　　校　坪井校長、江間副校長、古賀事務長
６　傍 聴 者　なし
７　内　　容
⑴学校運営の報告　（　　）内は質問に対する簡単な回答
ア　学校運営全般について　校長
イ　部活動の活動実績、校内コンプライアンス委員会について　副校長

⑵意見交換
（学校運営全般について）
A委員　校長から話があった「集団効力感」、「レジリエンス」は会社でも求められる力である。学校全体に波及することを期待したい。
B委員　校長が教職員や生徒に対して、学校が向かうべき方向を発信することは大切なことである。
A委員　社会人に必要な力として「やり抜く力」があるが、言い換えるとピンチの時こそ人間性が試される。その経験を授業だけでなく部活動で身に付くものと考えるので、引き続き部活動に力を入れてもらいたい。
　会社でも、タブレットやパソコンの活用が主流ではあるが、「手書き」にも温かみを感じることができるなど機械にはないよさもある。人とコミュニケーションをとるうえでは、機械に振り回されないことが大切である。

（校内コンプライアンス委員会について）
A委員　近時増加傾向にあり、会社でも留意している事柄である。個人間の思考のギャップが原因であることが多い。不適切な言動等に係る調査は、学校として継続してもらいたい。
C委員　学校が独自でアンケートや調査を実施することは、素晴らしい取り組みであると思う。厳しくコンプライアンスを問われ、今まで通りの生徒との関わりでは対応できない時代だからこそ、学校が前向きに取り組んでもらいたい。

（授業を参観して）
D委員　最近の授業は、教員が一方的に話をする授業ではなく、タブレットとやり取りをする時間が増えているが、一抹の不安を感じることがある。時代だから仕方がないが、教員と生徒の関係も随分と変化したように感じる。
A委員　会社では、タブレットやパソコンも使用しているが、温かみを感じることができる「手書き」のよさもある。機械操作だけではなく、人とのコミュニケーションできる力も大切で、機会に振り回されないことが大切である。
B委員　この10年間で社会が大きく変化したように、授業の形態や様子も大きく変化しているように感じる。また、個人の特性を尊重するようになってきている。

（その他）
B委員　学校ではＡＩを授業で活用しているか。（生徒の考えを広げたり深めたりすることや教員の作業時間短縮のために活用している。）
　学校からの説明のあった新しく導入した校務支援システムは、保護者からの情報の送信は24時間受付とのことだが、働き方改革の一環として、教職員が受信できる時間を設定したらよいのではないか。